

宮城県脳卒中ネットワーク スマイルネットの取り組み

広南病院 副院長・脳神経外科部長 一般社団法人宮城県脳卒中ネットワーク事務局幹事

清水 宏明氏

宮城県脳卒中ネットワークは宮城県内の脳卒中医療における医療機関同士の連携の推進を目的に設立された。設立当初は、紙によるデータの共有や脳卒中連携パスの運用の欠点を補うべくIT化し、今では専用ネットワーク上で運用するとともに患者の転院の申請もできるようになった。



スマイルネット参加状況

● 運用中・回線準備完了

1. 広南病院
2. 東北大学病院
3. NTT東北病院
4. 松田病院
5. 仙台医療センター
6. 東北厚生年金病院
7. 赤石病院
8. 仙台中江病院
9. 坂総合病院 (5/7 運用開始)
10. 仙台リハビリテーション病院
11. 総合南東北病院
12. 東北公済病院 宮城野分院

● 導入準備中 / 参加予定

1. みやぎ県南中核病院
2. 中嶋病院
3. 長町病院 (参加意向)
4. 公立刈田総合病院 (参加意向)
5. 仙石病院 (参加意向)
6. あおば脳神経外科 (参加意向)
7. 大崎市民病院 (参加意向)
8. 気仙沼市立病院 (参加意向)

スマイルネットの誕生

— 宮城県脳卒中ネットワーク、スマイルネット、みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会と様々な団体や名称がありますが、それぞれの役割と関連性を教えていただけますでしょうか。

清水宏明氏 もともとは東北大学医学部脳神経外科で宮城県の脳卒中連携を円滑に行うための宮城県脳卒中ネットワークが設立されました。そこで連携を行うツールとして開発されたのがスマイルネットです。スマイルネットは専用のサーバーと回線で構築されたオンラインの診療データベース・脳卒中地域連携パス共有システムです。

みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会というのは、これとはまったく別の組織で、宮城県全体の医療福祉をカバーするようなネットワークをめざしており、当面は東日本大震災の復興資金を利用したネットワーク構築事業を行っています。

— 宮城県脳卒中ネットワークに参加している病院は10施設でよろしいで

しょうか。

清水氏 9月に2病院が参加したので12施設になりました。

— 仙台市から少し距離がある病院も参加しているようですが、これは連携する地域を広げていこうということですか。

清水氏 ご指摘のように仙台市内の参加病院と地理的に少し距離がある病院も参加していただけるようになってきました。その病院と脳卒中連携している近隣の病院が参加準備をしているためお互いに参加のメリットが出てきたのだと思います。そうやって少しずつ広がり、最終的には宮城県内の脳卒中関連の病院がすべて入ってくれるようなネットワークにしたいと考えています。

スマイルネット でできること

— スマイルネットを使うと具体的にどのようなことができるのでしょうか？患者さんの紹介等もそれだけで可能なのですか。

清水氏 患者さんを受けてもらえるか

「スマイルネット」のプロフィール

2010年4月20日	一般社団法人宮城県脳卒中ネットワーク設立
2010年11月30日	スマイルネットサーバー立ち上げ
2010年12月	広南病院、東北大学病院で使用可となる
2011年3月11日	震災で一時活動休止
2011年5月	以降、徐々に活動再開

現在12病院が使用可能となり、計20病院が参加意向となっている。
みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の活動とも協調して進めている。

どうか会員病院に照会することが可能です。従来は紙とFAXで送っていた紹介状もデータ入力だけになりました。さらに統一された患者依頼の様式をとっているため、依頼された病院で受けられる患者さんかどうか判断しやすいと思います。

また、脳卒中連携パスもネットワーク上で運用しており、会員であれば患者の状態を把握することができるようになっています。

—— その脳卒中連携パスも宮城県脳卒中ネットワークで作成されたのですか。

清水氏 脳卒中連携パスは以前から使われていたもので、作ったのは宮城県脳卒中地域連携パス研究会です。この研究会が作成し、紙やフロッピーで運用していたベース、特に人のネットワークがあったので、スマイルネットに移行してもスムーズにいったのだと思います。

—— スマイルネットを宮城県全体に広げるといのが最終目標ですか。

清水氏 宮城県内のすべての医療機関、もちろん脳卒中患者さんの治療をしている医療機関にスマイルネットを使ってもらえるようにするのが目標です。そこで集まったデータを解析することで臨床や施策に役立つような疫学情報を得ることも可能になれば脳卒中医療の向上に大きく貢献できると思います。

たとえば脳卒中になった患者さんがどのような予後をたどるのか、個々の病院にはデータはありますが宮城県全体のデータはありません。また、発症して



広南病院 副院長・脳神経外科部長
一般社団法人宮城県脳卒中ネットワーク事務局幹事
清水 宏明氏

からどのくらいの時間で治療を受けたか、それによって予後がどう違うのかを年単位で追ったデータも作ることができるようになります。それを臨床に応用し、たとえばt-PA静注療法を行ううえでの問題点なども出すことができます。

—— オンラインで県内すべての情報が見られると、救急隊にもメリットはありそうですが、そこはいかがでしょうか。

清水氏 現段階では医療機関の間を結ぶネットワークとして設計していますが、技術的には可能です。ただ、市町村によっては患者さんの情報を電子化して共有してはいけないという条例があったりします。そうした面での考え方を統一する必要があるでしょう。

安全な連携ネットワークの構築

—— 新たに脳卒中連携ネットワークを構築する地域や医療機関に対して、何かアドバイスはありますか？

清水氏 既にあるもの、特に既存の人のネットワークを大切にすることだと思います。ネットワーク立ち上げ費用

を節約するには、国内の既存のネットワークを知り、共同利用するのも一つの方法だと思います。

—— 立ち上げるノウハウも必要になりますね。

清水氏 それは地域によって事情が異なるでしょう。私たちも進めていくうちに少しずつ解決していったところがあります。たとえば病院によって紹介状のフォーマットはすべて違うのですが、それを画面上では同じものにしていきます。もちろん市の条例で解決できない問題もありますが、少しずつ仲間を増やすことで理解も得られるのではないかと考えています。

使っていただいた病院からは「とても便利になった」という感想が届きます。

—— スマイルネットは宮城県の連携のデファクトスタンダードになるでしょうか。

清水氏 それは大げさな気がします。いろいろな手間が省け本来の仕事に集中できれば良いと思います。別々に動いていた医療機関が空きベッドなどを開示して、医療資源を効率的に活用できればとも思います。スマイルネットもITツールの一つですから、できるだけ他のツール・ネットワークと力を合わせて費用を節約しつつ効率を上げることが可能だと思います。その結果、使用者の利便性があがれば自然に普及すると思います。脳卒中連携だけに止まらず福祉や介護ともネットワークが組めるようになれば良いと考えています。